



行李編む里の柳も青みけり

由利由人(1878~1924) 本名 7代由利三左衛門

豊岡市育田に出生
俳誌「木兎」を創刊し、但馬の俳句界で活躍
豊岡町長として町政に尽力

書 森田子龍

大津市在住
書の革新を目ざして墨人会を結成、書の総合月刊誌「墨美」を発刊
アメリカ・カナダ・ドイツなどで個展を開催し、世界的に注目を集めた
日満支書道展 文部大臣賞受賞
京都府美術工芸功労者・京都市文化功労者・京都新聞文化賞受賞



こそ見めの至りが浦や所の春
云奴子

一延宝7年(1679)二見浦連歌会の発句一(高住 直筆)
三十六歌仙の一人である藤原兼輔が結びに「こそ見め」と歌った絶景の二見浦(城崎町)は、わが領地であるが、今こそ春たけなわである

京極高住(1660~1730) 豊岡藩京極家2代目当主
俳号を云奴(うんぬ)といい文学大名として有名



おもむろに晴れ上がりたる雪山河

京極紀陽(1908~1981) 豊岡藩京極家14代当主
高浜虚子の子弟で「ホトトギス」の同人
昭和21年に俳誌「木兎」を復刊
豊岡木兎会により、昭和58年建碑された。



田植歌「鶴の子」
鶴の子が巢立つほどこよ
山と山 山と山
やはたの森の 若松の枝

実りの秋を予祝する田植えは、戦前までは市内各地に残されていた。神美地区に残るのが「鶴の子」で、歌詞は室町時代の小唄が変化したものである。

書 村尾 晴 峰

箕面市在住
日本書芸院一科審査員・評議員
読売書法展評議員
全関西美術展招待作家
書団 竹翠会副会長

文学碑紹介



書 細川 翠 楠
豊岡市在住
日展会友
読売書法会理事
日本書芸院評議員
兵庫県書作家協会理事
風信書道会 主宰・会長

母里の町から便りが届く日毎
私はカサカサに輝いた掌を凝視めた
掌のこんぐらがった皺のなかで
雪に埋った母里の 少年の日を私は迎った
藤井重夫 望郷より

藤井重夫(1916~1979)
豊岡市小田井に出生 新聞記者から小説家になる
「虹」で第53回直木賞受賞
豊岡を舞台にした小説「佳人」は映画化された



書 八社宮翠石
宝塚市在住
日展会友
読売書法会理事
日本書芸院評議員
一東書道会副理事長

みみずく 説法
今 東光
海士屋の欄杆にもたれてながめると
脚下を水量豊かな円山川がながれ
白帆の行方をみると
はるか玄武洞 城崎温泉 日和山とつづいて
このうらぶれた北国の風向は 失意の少年の
旨を旅愁でかきむしるのであった

今 東光(1898~1977)
関西学院中学部より豊岡中学に転校
「お吟さま」で第36回直木賞受賞
作品には、豊岡中学時代の思い出を小説家した「悪太郎」がある



書 谷川 玉 峰
豊岡市在住
兵庫県書作家協会理事
兵庫県書道展審査員
毎日書道展会員
豊岡市美術展招待作家
兵庫県認可校 書窓学院学院長

湖上の美人
塩井雨江 訳
モナンの小川風さえて 光いざよふ夕月夜
かげのながるゝ谷水を のみてあきたるさをしかの
床はかなたの森の蔭 志げるはしばみその下に
妻をこひつゝねぶるなる 夢路の末やいかならむ

塩井雨江(1869~1913) 本名 塩井正男
豊岡藩士の子として出生 詩人・国文学者
イギリスの詩人サー・ウォルター・スコットの長編叙事詩
を訳した「湖上の美人」を出し、世に広く愛読された

【 経 過 】

- 平成元年 3月 ふるさと創生事業市民アイデア募集
平成元年 11月 ふるさと創生市民アイデア優秀作品決定
応募総数 69件
(最優秀作品) 豊岡市正法寺 河原英雄氏
「神武山周辺に文学のこみちと美術館・博物館を整備する。」
平成5年～6年 遊歩道整備
平成9年 6月 「歴史・文学のこみち碑等選定委員会設置」
委員長 遠藤嘉吉郎
委員 9名
平成9年 9月 歴史・文学のこみち碑等決定
平成10年 1月 工事開始
遊歩道整備・外灯・手すり設置
文学碑等設置
平成10年 3月 「歴史・文学のこみち」完成
平成11年 3月 豊岡市立図書館完成予定

豊 岡 城

神武山(標高49m)の名は、明治5年(1873)の神武天皇遙拝所設置によるが、山容から亀城・亀山、城の所在から城山とも呼ばれる。

伝承では、15世紀中ごろ、九日市に守護所を置く但馬守護山名宗全がこの山に築城、被官垣屋氏に守らせたという。戦国末期、垣屋氏が事実上の但馬実力者となるに及び、この城(当時は城崎城と呼んだ)は但馬支配の中心拠点となった。

天正8年(1580)、羽柴勢の但馬占領によって旗下宮部善祥房が入城、木下助兵衛尉、明石与四郎、福原右馬之助と続き慶長2年(1597)杉原長房に至った。承応2年(1653)杉原家断絶により城は破却されたと見られるが、本丸・萩の丸・笠の丸の他、天守台などの遺構が残された。

寛文8年(1668)、京極氏代に入ると、城山は城郭遺構を保持したまま陣屋及び城下町の象徴となった。

豊岡城こそは、豊岡市の中世・近世における歴史的原点である。

神武山公園

「歴史・文学のこみち」



平成10年4月

豊岡市